

安全データシート

塩化カルシウム

1. 化学物質及び会社情報

化学物質の名称	塩化カルシウム
会社名	ニッチク薬品工業株式会社
住所	神奈川県綾瀬市早川 2630 番地
担当部署	品質保証部
電話番号	0467-78-0831
FAX 番号	0467-76-1016
緊急時の電話番号	同上
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない

環境に対する有害性	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（血液系）
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない
ラベル要素		
絵表示またはシンボル	  	
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	飲み込むと有害 重篤な眼の損傷 呼吸器への刺激のおそれ、または、 眠気またはめまいのおそれ 長期にわたる、または反復ばく露による臓器<血液系>の障害のおそれ	
注意書き	【安全対策】 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱後は手をよく洗うこと。 取扱後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 保護眼鏡／保護面を着用すること。 【応急措置】 飲み込んだ場合：医療処置を受けること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿	

勢で休息させること。

眼に入った場合：すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医療処置を受けること。

気分が悪い時は、診察を受けること。

口をすすぐこと。

【保管】

換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	塩化カルシウム (Calcium dichloride)
濃度又は濃度範囲	100%
分子式 (分子量)	CaCl ₂ (111.0)
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(1)-176
CAS No.	10043-52-4

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

予想される急性症状及び 遅発性症状	吸入：咳、咽頭痛。 皮膚：皮膚の乾燥、発赤。 経口摂取：灼熱感、吐き気、嘔吐。
応急措置をする者の保護	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取り扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 飲み込まないこと。

接触回避	眼に入れないこと。
保管	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管条件	特に技術的対策は必要としない。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	データなし
8. 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会 (2007 年度版)	未設定
ACGIH (2007 年度版)	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	
形状	固体
色	無色
臭い	無臭
pH	データなし
融点・凝固点	772℃：SIDS (Access on Dec. 2008)
沸点、初留点及び沸騰範囲	>1600℃：SIDS (Access on Dec. 2008)

引火点	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	不燃性：IUCLID (2000)
爆発範囲	データなし
蒸気圧	0：IUCLID (2000)
蒸気密度	データなし
比重(密度)	2.152(15℃, 4℃)：HSDB (2003) 1.32～1.34g/cm ³ (20℃)：IUCLID (2000)
溶解度	水：745g/l (20℃)：SIDS (Access on Dec. 2008) アセトン、アルコール：可溶：HSDB(2003)
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	高温で加熱や燃焼すると分解し、有毒で腐食性のヒュームを生じる。 水溶液は弱塩基である。 水の存在下で亜鉛を侵し、引火性の高い水素ガスを生じる。 水中で激しく溶解し、多量の熱を放出する。
避けるべき条件	高温での加熱や燃焼
混触危険物質	水、亜鉛
危険有害な分解生成物	有毒で腐食性のヒューム

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット LD ₅₀ =2045 mg/kg(雄)、1940 mg/kg(雌) (OECD TG 401) (SIDS (Access on Dec. 2008)) のうちラット雌の LD ₅₀ に基づき区分 4 とした。
経皮	ウサギ LD ₅₀ >5000mg/kg (SIDS (Access on Dec. 2008))

吸入：ガス	は区分外に該当する。
吸入：蒸気	GHS の定義における固体である。
吸入：粉じん	データなし
	ラット LD50 値が 0.16mg/L 以上 (SIDS(Access on Dec. 2008)) のデータがあるが、区分を特定できないので分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	ラットを用いた試験 (OECD TG404 GLP) で無水物と 2 水和物は not irritating、6 水和物は slightly irritating (いずれも SIDS(Access on Dec. 2008)) の結果であるが、塩化カルシウムを梱包する作業員(複数) の皮膚に紅斑、剥離が認められることから、塩化カルシウムはヒトの皮膚、粘膜に強い刺激性を示すとしている (SIDS(Access on Dec. 2008))。動物試験のデータは区分外ではあるが、ヒトの事例との相違から分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	塩化カルシウムを梱包する作業員(複数) の皮膚に紅斑、剥離が認められることから、塩化カルシウムはヒトの皮膚、粘膜に強い刺激性を示すとしている (SIDS(Access on Dec. 2008)) ことより区分 1 とした。なお、ラットを用いた試験 (OECD TG404 GLP) で無水物と 2 水和物は not irritating、6 水和物は slightly irritating (いずれも SIDS(Access on Dec. 2008)) の結果がある。
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	In vivo 試験のデータがなく、複数指標の in vitro 変異原性試験の強陽性のデータもなく分類できない。なお、in vitro 変異原性試験：エームス試験および CHL 細胞を用いた変異原性試験で陰性の結果が得られている(いずれも SIDS(Access on Dec. 2008))。
発がん性	データなし
生殖毒性	ラットおよびマウスを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (OECD TG 414) において発生毒性は確認されていないが SIDS(Access on Dec. 2008)、親の生殖能および性機能に関するデータがなく分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	ラットの吸入試験 (0.04、0.16mg/L) において、複数の呼吸器系の刺激の症状 (SIDS (Access on Dec. 2008)) とあることから区分 3(気道刺激性) とした。

特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	ラットの経口投与試験において用量に関係なく複数の試験で毒性影響は見られていないが、ラットの吸入試験において 43.1 mg/m ³ /4 時間/day (5days/week, 4 ヶ月) (6 時間換算値: 0.03 mg/L)で、白血球数の減少、血中貪食能の低下、血清中ライソザイム酵素レベルの低下、触媒活性の低下、血漿カルシウム再沈着の減少、凝固反応の時間の短縮、ペルオキシダーゼ活性の上昇など顕著な毒性症状が認められ、これら症状は観察期間以降も大概在り回復しなかった〔SIDS (2008)〕ことから、区分 2 (血液系) とした。
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境急性有害性	魚類、藻類、甲殻類のいずれの試験でも LC/EC50 が 100mg/L 以上 (SIDS 2005) であることから、区分外とした。
	水生環境慢性有害性	急性毒性区分が区分外であり、難水溶性ではない (水溶解度 = 745g/L、SIDS 2005) ことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則	該当しない。
国内規制	該当しない。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	該当しない。

15. 適用法令

海洋汚染防止法

査定物質（Z 類同等の有害液体物質）（環境省告示）

16. その他の情報

この安全データシートは、プレミックス研究会が作成した安全データシートを基に、厚生労働省職場のあんぜんサイトのモデル SDS 情報、NITE-CHRIP、GHS 文書を参考に修正を加えたものです。

すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

各データ毎に記載した。

<改訂履歴>

版

日付

内容

初版

2025 年 4 月 1 日

令和 7 年 4 月 労安法対応